

平成25年度 第32回全国高校生建築製図コンクール結果報告

製図コンクール運営委員会委員長 卜部 寿々子

第32回全国高校生建築製図コンクールには、東日本建築教育研究会の加盟校および加盟校以外の先生方から、校務ご多忙にもかかわらず絶大なるご協力を頂きました事を厚くお礼申し上げます。

[I] 応募状況

1 応募校数

応募校数		全日制		定時制		加盟校				加盟校以外			
						全日制		定時制		全日制		定時制	
H25	H24	H25	H24	H25	H24	H25	H24	H25	H24	H25	H24	H25	H24
57校	64校	53校	57校	4校	7校	47校	50校	4校	7校	6校	7校	0校	0校

2 応募作品数

課題名	加盟校別	回数	学校数・作品数		全日制・作品数		定時制・作品数	
課題1	加盟校	H25	40校	97点	36校	89点	4校	8点
		H24	48校	116点	43校	106点	5校	10点
	加盟校以外	H25	5校	10点	5校	10点	0校	0点
		H24	6校	15点	6校	15点	0校	0点
課題2	加盟校	H25	18校	41点	17校	38点	1校	3点
		H24	21校	42点	21校	42点	0校	0点
	加盟校以外	H25	4校	9点	4校	9点	0校	0点
		H24	2校	5点	2校	5点	0校	0点
課題3	加盟校	H25	31校	70点	30校	67点	1校	3点
		H24	29校	59点	26校	55点	3校	4点
	加盟校以外	H25	2校	2点	2校	2点	0校	0点
		H24	4校	8点	4校	8点	0校	0点
課題4	加盟校	H25	9校	15点	8校	14点	1校	1点
		H24	10校	23点	9校	22点	1校	1点
	加盟校以外	H25	1校	3点	1校	3点	0校	0点
		H24	1校	3点	1校	3点	0校	0点
課題5	加盟校	H25	9校	18点	8校	17点	1校	1点
		H24	10校	17点	9校	16点	1校	1点
	加盟校以外	H25	1校	3点	1校	3点	0校	0点
		H24	0校	0点	0校	0点	0校	0点
応募校計		H25	268点 (加盟校 241点・加盟校以外 27点)					
		H24	288点 (加盟校 257点・加盟校以外 31点)					

3 校内作品審査数の総計

		課題 1	課題 2	課題 3	課題 4	課題 5
加盟校	H25	1,385点	524点	696点	40点	80点
	H24	1,481点	499点	547点	102点	25点
加盟校 以外	H25	160点	112点	20点	6点	6点
	H24	228点	36点	154点	7点	0点
応募校計	H25	1,545点	636点	716点	46点	86点
	H24	1,709点	535点	701点	109点	25点

[Ⅱ] 入賞者

	賞	学校名	科名学年	生徒氏名
課題 1 : 軒先マワリ詳細図				
1	金賞	栃木県立今市工業高等学校	建設工学科 2 年	渡辺 絢香
2	銀賞	栃木県立宇都宮工業高等学校	建築デザイン科 1 年	増淵 裕都
3	銀賞	静岡県立科学技術高等学校	建築デザイン科 1 年	和田 誠悠
4	銅賞	群馬県立前橋工業高等学校	建築科 1 年	森山 夏乃子
5	銅賞	栃木県立今市工業高等学校	建設工学科 2 年	柏木 輝子
6	銅賞	長野県飯田 OIDE 長姫高等学校	建築学科 1 年	福本 雅広
7	入賞	愛媛県立吉田高等学校	機械建築工学科 1 年	瀧澤 朱音
8	入賞	栃木県立宇都宮工業高等学校	建築デザイン科 1 年	齋藤 知佳
9	入賞	栃木県立宇都宮工業高等学校	建築デザイン科 1 年	関塚 百花
10	入賞	栃木県立今市工業高等学校	建設工学科 2 年	天野 沙耶
11	入賞	岐阜県立岐南工業高等学校	建築科 1 年	高橋 朋伽
12	入賞	長野県飯田 OIDE 長姫高等学校	建築学科 1 年	花井 勇気
13	入賞	宮城県白石工業高等学校	建築科 1 年	佐々 智広
14	入賞	群馬県立前橋工業高等学校	建築科 1 年	鈴木 千広
15	入賞	名古屋市長工芸高等学校	建築システム科 1 年	宇野 渉
16	入賞	埼玉県立春日部工業高等学校	建築科 1 年	大川原 誠人
17	入賞	山梨県立甲府工業高等学校 定時制	建築科 2 年	芦沢 なつめ
課題 2 : 木造平家建専用住宅				
1	金賞	長野県飯田 OIDE 長姫高等学校	建築科 2 年	小林 沙也花
2	銀賞	栃木県立真岡工業高等学校	建設科 2 年	成田 楓
3	銀賞	広島市立広島工業高等学校	建築科 2 年	平尾 和也
4	銅賞	栃木県立真岡工業高等学校	建設科 2 年	小菅 克樹
5	銅賞	広島市立広島工業高等学校	建築科 2 年	川端 桜治
6	銅賞	長野県飯田 OIDE 長姫高等学校	建築科 2 年	棚橋 由紀子
7	入賞	関市立関商工高等学校	建設工学科 2 年	白兼 一輝
8	入賞	神奈川県立神奈川工業高等学校	建設科 2 年	齋藤 悠介

9	入賞	栃木県立宇都宮工業高等学校	建築デザイン科 2年	大嶋 笙平
10	入賞	山梨県立甲府工業高等学校	建築科 2年	河野 凌太
11	入賞	長野県飯田 OIDE 長姫高等学校	建築科 2年	大矢 聡
12	入賞	松山聖陵高等学校	建築科 2年	佐々木 慶三
13	入賞	松山聖陵高等学校	建築科 2年	古鎌 拓人
14	入賞	埼玉県立春日部工業高等学校	建築科 2年	澁谷 航
15	入賞	仙台市立仙台工業高等学校	建築土木科 3年	熊谷 和音
課題 3 : 木造 2 階建専用住宅				
1	金賞	長野県飯田 OIDE 長姫高等学校	建築科 3年	中本 豊
2	銀賞	愛知県立豊橋工業高等学校	建築科 3年	鈴木 瑠夏
3	銅賞	栃木県立真岡工業高等学校	建設科 3年	渡邊 航也
4	銅賞	愛知県立半田工業高等学校	建築科 3年	齋藤 卓磨
5	銅賞	新潟県立上越総合技術高等学校	建築・デザイン科 3年	岩崎 遥華
6	銅賞	山梨県立甲府工業高等学校	建築科 3年	渡部 光
7	入賞	愛知県立碧南工業高等学校	建築科 3年	岩田 大輝
8	入賞	愛知県立豊橋工業高等学校	建築科 3年	富永 翔太
9	入賞	静岡県立沼津工業高等学校	建築科 2年	葛城 圭巳汰
10	入賞	千葉県立市川工業高等学校	建築科 2年	石川 晃太
11	入賞	栃木県立今市工業高等学校	建設工学科 3年	竹澤 佳那
12	入賞	岐阜県立高山工業高等学校	建築インテリア科 3年	洞口 瑠華
13	入賞	新潟県立上越総合技術高等学校	建築・デザイン科 3年	渡部 裕樹
14	入賞	東京都立墨田工業高等学校 定時制	総合技術科 4年	竹内 稔
課題 4 : 木造平家建専用住宅 (CAD 製図)				
1	金賞	山梨県立甲府工業高等学校 定時制	建築科 2年	松土 大地
2	銀賞	埼玉県立春日部工業高等学校	建築科 2年	西巻 遼
3	銅賞	栃木県立真岡工業高等学校	建設科 2年	佐々木 秀人
4	銅賞	埼玉県立春日部工業高等学校	建築科 2年	若菜 裕也
5	入賞	愛知県立愛知工業高等学校	建設科 3年	浅田 裕斗
6	入賞	長野県飯田 OIDE 長姫高等学校	建築科 3年	林 菜美子
課題 5 : 木造 2 階建専用住宅 (プレゼンテーション作品)				
1	金賞	栃木県立今市工業高等学校	建設工学科 3年	松本 苑子
2	銀賞	山梨県立甲府工業高等学校 定時制	建築科 3年	児玉 和希
3	銀賞	山梨県立甲府工業高等学校	建築科 3年	寺島 比呂
4	銅賞	山梨県立甲府工業高等学校	建築科 3年	小笠原 未奈
5	入賞	松山聖陵高等学校	建築科 3年	山田 倫平
6	入賞	松山聖陵高等学校	建築科 3年	森田 竜也
7	入賞	埼玉県立春日部工業高等学校	建築科 3年	井上 博斗

8	入賞	埼玉県立春日部工業高等学校	建築科3年	木暮 美月
9	入賞	栃木県立小山北桜高等学校	建築システム科3年	大和田 陸
10	入賞	埼玉県立春日部工業高等学校	建築科3年	木村 拓登
11	入賞	松山聖陵高等学校	建築科3年	須賀 康介

[Ⅲ] 審査

1 賞の選出

- (1) 各課題最高作品を金賞とし、順次銀賞銅賞入賞とする。
- (2) 各課題定時制課程参加作品から入賞以上を選出する。

2 審査方法

(1) 一次審査

- ア 審査は委員全員で行う。
- イ 原図を使用する。
- ウ 各課題参加数の1/5程度(最大20点程度)を目安に絞り、入賞作品の対象とする。
- エ 審査基準は、各課題の観点に従う。
- オ 作品を相対的に比較する。

(2) 二次審査

- ア 審査は委員全員で行う。
- イ 表題欄をカットする。
- ウ 複写図面を使用し、チェックを書き込む。
- エ 入賞作品以外の作品で再度入賞以上に該当するものがないか確認する。

(3) 最終決定

- ア 最終決定を投票で行う。

3 課題別審査の観点

(1) 課題1「軒先マワリ詳細図」

注意：最新版の教科書を用いているか。

- ア 図が正確に描かれているか。(部材の大きさや厚み・金物等の形状・部材相互の距離等)
- イ 明瞭な図であるか。(線の使い分け・線の始端から終端までが均一な太さ、濃さであるか)
- ウ 文字や数字は明瞭で正確であるか。(抜けている、大きすぎる、小さすぎる、形状がバラバラ等)
- エ その他

松丸太に関して

- ・太鼓落しを表現する曲線はフリーハンドより定規使用の方が良い。
- ※ただし曲線がフリーハンドで描かれていても失格ではない。

野縁に関して

- ・位置は軒桁中心から測られているか。

天井に関して

- ・位置が製図例2-6に基づいているか。

線の使い方に関して

- ・下書き線が濃すぎないか。
- ・仕上げ線（断面線）が極端に太すぎないか。

（2）課題2「木造平家建専用住宅」

- ア 敷地の形状や配置，外構計画に工夫があるか。（敷地面積が限度を超えていないか）
- イ 平面図は正確に描かれているか。（教科書の内容と違ってないか）
- ウ 立面図に工夫があるか。（窓の形状や種類，位置等が平面図と異なってないか）
- エ 断面図に工夫があるか。（屋根形状を生かした内部空間であるか）
- オ 屋根の形状に工夫があるか。（機能を充たす屋根の形状であるか）
- カ 図面相互に違いがないか。
- キ 明瞭な図であるか。（線の使い分けが正しいか）
- ク 製図規約を重視しているか。
- ケ その他

配置図兼平面図に関して

- ・道路境界線，隣地境界線と建物の距離が抜けていないか。
- ・隣地境界線を実線で描く等，線の使い方を間違えていないか。
- ・床の仕上げを表現している。
- ・ロフトを計画した場合はそれを描いているか。

立面図に関して

- ・全体的なバランスが良いか。

断面図に関して

- ・平面図に記された切断線の位置との違いがないか。
- ・ロフトを計画した場合はそれを描いているか。
- ・ロフトの天井が極端に高くないか。

屋根伏図に関して

- ・水勾配や寸法が記入されているか。
- ・屋根仕上げに用いた材料名称が描かれているか。
- ・断面線の表示がされているか。

（3）課題3「木造2階建専用住宅」

- ア 計画性を重視する。
- イ 配置・平面・立面・断面・外構の計画に工夫があり機能的であるか。
- ウ 構造的に無理がないか。
- エ 製図規約に配慮しているか。
- オ その他

設計主旨に関して

- ・主旨と計画に違いがないか。

配置図兼平面図に関して

- ・家族構成に対して，所要室や各室の面積に配慮しているか。
- ・将来的に車椅子を利用する者に対しても配慮した計画であるか。

- ・外構計画において高低差に配慮しているか。
- ・車と駐車スペースの大きさや表記方法に間違いがないか。
- ・平面図に家具が記入されているか。
- ・平面図に柱が抜けていないか。
- ・平面図に記された階段の段数は正確か。
- ・平面図に記された階段には、手すりを設けているか。

立面図に関して

- ・平面図とのくい違いがないか。
- ・全体的なバランスが良いか。

断面図に関して

- ・形状が不適切でないか。（異常に高すぎる，低すぎる）
- ・高さに関する寸法の記入があるか。

（4）課題4「木造平家建専用住宅」（CAD製図）

注意：2枚提出されているか。（1枚しか提出されていない場合は失格とする）

- ア 敷地の形状や配置・外構計画に工夫があるか。（敷地面積が限度を超えていないか）
- イ 平面図は正確に描かれているか。（教科書の内容と違ってないか）
- ウ 立面図に工夫があるか。（窓の形状や種類，位置等が平面図と異なっていないか）
- エ 断面図に工夫があるか。（屋根形状を生かした内部空間であるか）
- オ 屋根の形状に工夫があるか。（機能を充たす屋根の形状であるか）
- カ 図面相互にくい違いがないか。
- キ 明瞭な図であるか。（線の使い分けが正しいか）
- ク 製図規約を重視しているか。
- ケ その他
 - ・ロフトを計画した場合は，それを平面図や断面図等に描いているか。
 - ・手書き表現で描かれているか。（CAD特有の表現のままでないか）

（5）課題5「木造2階建専用住宅」（プレゼンテーション作品）

注意：2枚提出されているか。（1枚しか提出されていない場合は失格とする）

- ア プレゼンテーション・表現を重視する。（プレゼンテーションと作りだされている作品が一致しているか）
 - ・パース，模型，説明，着色等で判断する。
- イ 製図規約については重視しない。
- ウ その他
 - ・計画や表現はオリジナリティがあるか。
 - ・各図面間での整合性はあるか。
 - ・縮尺については重視しない。

[IV] 審査講評

課題1 軒先マワリ詳細図

金賞図面は、文字や数字が美しく整っており、線の強弱がしっかりとしたメリハリのある図面でした。また、全体的にバランスのとれた作品でした。

金賞以外の図面についても線の使い分けが明瞭で、優秀な図面も多くありましたが、部材の基本寸法の正確さや文字、数字の丁寧さが欠けている図面が目立ちました。

【アドバイス】

次年度は、部材の基本寸法、線の使い分けだけでなく、文字や数字の丁寧さ、正確さ、そしてレイアウトにも注意してください。

課題2 木造平家建専用住宅

金賞図面は、平面図の完成度が高く、造園計画、立面と屋根の計画等が丁寧に計画されたことが手に取るようにわかる作品でした。造園計画での工夫もみられ、よく考え抜かれた作品です。

金賞以外の図面についても立面図の表現が優れていて、ユニークな図面もありましたが、記入漏れや整合性のとれない作品等、作図力が乏しい作品も多く見受けられました。

【アドバイス】

次年度は、表現力も大事だが基本的な作図力の精度をあげ、整合性のとれた空間計画をしてください。さらに、立面計画においては、屋根形状や計画する空間の役割等を表現できるように努力してください。

課題3 木造2階建専用住宅

金賞図面は、設計主旨に基づいたプランニングがなされており、立面図の作図がすばらしく、表現力の高い優れた作品です。

金賞以外の作品についても、個性的なプランや、表現力の優れた作品がある一方で、作図力の乏しい作品も見受けられました。基本的な作図の知識や構造、法的規制等を総合的にとらえた計画と表現力を望みます。

【アドバイス】

次年度は、オリジナリティあふれる作品を目指し、創意工夫を忘れず表現力に磨きをかけてください。

課題4 木造平家建専用住宅（CAD製図）

金賞図面は、基本的な線の使い分けができており、プランが面白く、表現力にすぐれた作品でした。

金賞以外の図面についても立面図の表現がすぐれている作品がありました。全体的な印象は、庭園計画や立面計画が乏しく、CAD素材に頼りきりになっているのが気になります。

【アドバイス】

次年度は、デザインよりも空間等の計画を重視し、それらを表現できるように努力してください。

課題5 木造2階建専用住宅（プレゼンテーション作品）

金賞図面は、手描きによるパースや模型写真を取り入れることにより、温もりのある家を想像でき、プレゼンテーション力の高い作品です

金賞以外の図面についてもそれぞれ優秀な図面があり、立体表現（模型）などによる表現力のすばらしいものがある一方で、プレゼンテーションソフトに頼りすぎている作品もありました。

【アドバイス】

次年度は、設計主旨に基づいたプランニングや、プレゼンテーションの仕方を工夫し、個性豊かな作品を期待します。

[V] 平成26年度に向けて

- 1 課題1 軒先マワリ詳細図
平成25年度 新課程版教科書発刊に伴う、製図例の変更。
平成26年度 例年通り。
- 2 課題2 木造平家建専用住宅
平成25年度 屋根形状と立断面計画に工夫した作品を期待する。
平成26年度 新課程版教科書発刊に伴う、製図例の変更。
- 3 課題3 木造2階建専用住宅
平成25年度 法規・構造に配慮した、個性的な作品を期待する。
平成26年度 例年通りとする。
- 4 課題4 木造平家建専用住宅（CAD製図）
平成25年度 課題2を手書きの表現で作図するCAD製図。
平成26年度 例年通りとする。
- 5 課題5 木造2階建専用住宅（プレゼンテーション作品）
平成25年度 プレゼンテーションを重視した作品。
平成26年度 例年通りとする。
- 6 共通事項 課題1～課題4の表題欄の変更（表題欄に課題番号を記入する）

今年度も審査講評を参考にいただき、ご応募くださるようお願い申し上げます。なお、ホームページに各課題の金賞作品を記載しております。

製図コンクール運営委員

	塩澤 泰 (関東第一)	橋本 政美 (昭和第一学園)	福島 勝 (日工大駒場)
	高野 史晃 (真岡工)	岩下 英史 (神奈川工定)	
(製図分科会)	櫻井 良明 (甲府工定)	中曽根 康 (高崎工)	村井 和幸 (上越総合)
	笹崎 ひろみ (総合工科)	國島 かほり (神奈川工)	
(計画分科会)	荒木 宏道 (館林商工)	江原 聖直 (川越工)	
(法規分科会)	萱沼 俊一 (石巻工)	岩瀬 政利 (市川工定)	
(構造分科会)	菅沼 雄介 (富士北稜)	鈴木 隆 (葛西工)	青柳 昭 (市川工)
(施工分科会)	網中 正仁 (館林商工)	吉村 公利 (春日部工)	

平成26年4月1日
製図コンクール運営委員長
卜部 寿々子